

## “みんなでラボろう！！” って？

“みんなでラボろう” というのは朝霧小の先生間の自由な意見の交流の場（＝熟議）の呼び名です。朝霧小の職員室にはそうした意見交流ができるラボ（研究所）があり、ここでは学年等をこえ、話題を持ち寄り意見交流が行われているようです。

そんな自由な意見の交流の場が学校間を超えて広がればいいな、そんな意見交流の情報が発信できたらいいなと、朝霧小の“みんなでラボろう”をちょっと拝借させていただき、学校間の情報交流の場“みんなでラボろう”をオンラインで、また学校間交流の場の様子を“みんなでラボろう”としておとどけできたらと考えています。

## 学校間交流がスタート！！

実はそんな学校間交流がスタートしているのです。5月28日に朝霧小の呼びかけで、松が丘小、朝霧中の朝霧中学校区 UNIT で、松が丘の実践から学ぼうということで3校の研究推進がオンラインでの対話の場が持たれました。

朝霧小は令和2・3年度の明石市教育委員会指定研究「新しい時代の教育」を受けられ、昨年度までの「きく・話す」の研究で培ってきた指導方法を生かし、朝霧の町や社会に貢献しようという意欲を持ち、自ら課題を見つけ学びを創造し、自己を高めていく力を育てたらと新たな研究を本年度からスタートされています。今年度は研究テーマを「社会とつながり、探究し続け、自己を高めていく児童の育成」と掲げ、そのアプローチとして“朝霧流プロジェクト型学習”という、社会や地域にとって意味のある課題を学級・学年で共有し、仲間と協働しながら課題解決を目指すプロジェクト型学習に取り組まれようとしています。

そんな流れもあり、松が丘の松が丘プロジェクトの誕生した経緯やカリキュラムの考え方等を学ぼうということで計画されたものですが、せっかくなら朝霧中にも参加していただけたらと朝霧中にも呼びかけ、朝霧中からも研究推進の先生が参加されました。松が丘小の大谷先生から「ありがとうございます」でつながる学校・地域”の研究テーマに掲げ、テーマに迫るために本年度はサブテーマを“イノベーションを生む対話的な学びの創造”と設定した研究の経緯やカリキュラムの考え方、地域とのつながりを考えたカリキュラム・マネジメント等具体例を交えた説明をしていただき、その後、質問を含め対話が行われました。



私も参加させてもらいながら、新しい研究のスタイルが生まれたと感じました。参加された先生も同じような感覚を持たれた方も多いのではと思います。研究発表会での発表ではなく、開かれた形で研究が進んでいく、そんな研究がオンラインで実現したような気がしました。

そんな学校間交流“みんなでラボろう”をオンラインで月1回から2回程度持てないかなと企画中です。皆様からもこんな話題で交流できたらといったことを寄せていただけたらと思っています。詳しく決めましたらこの学校間交流通信“みんなでラボろう”でお知らせさせていただきます。

### みんなでラボる前に こんな対話ができたらいいな

先日の「未来の教育特別号」で紹介されていた、手島先生の“新学習指導要領「前文」読み解けない学校の末路”を読んでみました。手島先生は「このままではまずい」と提言してくださっていると感じました。一早く日本のまずい状況を教育関係者に1人でも多く心に留めてもらい、課題を改善しうる教育実践を進めていかないといけないと感じました。……。「誰かがしてくれる」ではなく、今こそ、「自分たちがやる」「自分がやる」というように私たちが主体的・対話的に取り組み、学びを深めていくことが大切なのではないでしょうか。

これは 天文科学館の中島指導主事からいただいた“2021 年度版未来の教育を考える特別号 No.1”を読まれての感想の抜粋です。朝中 UNIT の学校間交流会に参加して、松が丘小や朝霧小に共通していることはこれまでの教科研究では「まずい」と感じられ、教科横断的な単元を組む中で“人に触れ、人とつながり、人に学ぶ”場が必要だと感じられたことではと思います。それはまさしく学習指導要領の前文で手島先生が特に理解することが必要とされていた“児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。”につながるものではと考えます。多様な社会へつながる身近な地域での学びをデザインするために教科横断的な単元を組み、カリキュラム・マネジメントをおこなっていく必要性を感じたのは、プログラム化できない学びに松が丘小も朝霧小も目を向け始めたからではと思います。

「日々の学校生活や行事を通じての経験は、教師による知識やスキルの計画的指導というよりは、プログラム化できない全人格的な体験を通じて、自己の生き方・あり方に子どもたちが自ら気づいていく」（石井英真 「今求められる学力と学びとは」より）

松が丘小は、“地域の中で生きる、子どもが主人公の「松小ストーリー」～入学から卒業まで～”と6年間を一つのストーリーとして考え、各学年のカリキュラムマップは、各学年のストーリーのあらすじととらえ、ストーリーを創り出していく中での対話で変化を生みだしていこうとされているのではと思います。また朝霧小は、“朝霧流プロジェクト型学習”を通して“社会とつながり、探究し続け、自己を高めていく”児童をめざし、「認知しにくい力」が育つ学びの仕組を創り出そうとされているのではと思います。

“児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる”ための資質・能力を見つめ始めた松が丘小や朝霧小の取組をたたき台にしながら「新しい時代の教育」について皆さんと対話ができたらいいなと思っています。

(文責：北本)

## 令和3年度 研究について

### 0. これまでの経緯

研究主題：毎日明るく楽しく、生き生きと学ぶ松っ子

年度	教科	サブテーマ
H28	体育	体育学習を基軸にし、自尊感情を高め、主体的・協働的に学ぶ児童の育成
H29	体育	体育科を基軸にして、主体的・対話的に学び、共に伸びる児童の育成
H30	体育	体育科を基軸にして、主体的・対話的に学び、共に伸びる授業の構築
H31R1	各教科	体育科を基軸にして、各教科・領域で主体的・協働的に学ぶ児童の育成
R2	生活・総合	地域に積極的にに関わり、探究的な学習を通して、児童の主体的・協働的な学びを高める授業の創造

上の表から分かるように、5年前に研究教科が算数から体育に変わって以降、5年間は、同じ研究主題となっており、サブテーマが少しずつ変遷してきている。直近2年は体育科から他教科へ広げる取り組みを行っており、地域との関わりに重きをおいた研究にシフトしてきた。これは、これまで体育科の授業そのものを研究してきたわけではなく、体育科を基軸とし、「子どもが自己実現しやすい単元構想」を研究してきたことや、本校が平成29年度にコミュニティスクールのモデル校となったことから考えると自然な流れであると考えている。そこで、次のように研究主題を再設定することとした。

### 1. 研究主題

研究主題：「ありがとう」でつながる学校・地域  
サブテーマ：イノベーションを生む対話的な学びの創造

#### イノベーションとは・・・

新しいアイデアや仕組み、情報などを取り入れて「社会的な価値を新たに生み出す」や「社会や会社にとって有益な変化を起こす」といった意味もある。実際、それまで会社が抱えていた問題を解決できるような新たな手法を考えだすことなども、「イノベーションを起こす」と表現されることがある。  
(新語時事用語辞典より)

### 2. 研究にあたって

#### 〇どのように主題に迫るのか？主題とサブテーマの関係について

「ありがとう」でつながる学校・地域とは、1年生の生活科の単元名が「松が丘愛」であるように、入学してから民生委員さんや、スクールガードの方の見守りに始まり、週1回の「松っ子教室」で地域の方からの愛を一心に受けることができている。低学年で地域の方からの愛を感じ、大切にされていることの気付きが、自己肯定感を高め、6年生になったときには、「ありがとう」と言われる人になりたいと思える子どもに成長することを願っている。そして、地域の方から大切にされた実感が、高学年になったときの「松が丘プロジェクト」の原動力となり、そこで「ありがとう」と言われることで、自己有用感が高まり、卒業してからの地域に対する地域愛・郷土愛につながり、やがて地域・社会を支える人につながると考えている。また、人の役に立った実感は、将来、社会人として働く際にも「人の役に立つ」という視点の土台となると考え考えている。

サブテーマについては、「変化」「イノベーション」ということをキーワードに研究をすすめたいと考えている。これは、必然性のある「対話的な学び」につながると考えているからだ。対話をしていても実生活に変化がなければ、対話というプロセスに意味を感じることはできない。対話をすることで、少しでも「変化」が生じれば、次の挑戦に対するモチベーションが高まり、主体的な学びにつながると考えている。本校の児童の課題として「どうせ〇〇しても・・・」という発想がある。これは、これまで生きてきた中で、行動しても失敗に終わるか、何も変わらなかった経験にもとづくものと考えられる。したがって、対話による「変化」を実感させることで、この本校児童の課題が解決に近づくのではないかと考えている。

このように低学年の生活科の中で愛を実感し、中学年から始まる総合的な学習の中で対話的な学びを意図的に仕組み込み、PDCAサイクル【Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)]を繰



り返すことで、現代社会を生きていく上で必要となる課題発見能力や課題解決能力などが身に付き、将来の社会的課題にも立ち向かうことのできる人に成長するのではないかと考えている。

### 3. 本年度解決すべき児童の実態

- ・やる気はあるが、依然指示待ち傾向が見られ、主体的な学びは限られている。
- ・伸びようという意識はあるが、自らを成長させるための学び方が分からない。
- ・仲間意識は高いが、聞く・話す力、話し合う力が乏しく、対話的な深い学びに課題が見られる。
- ・学んだことを次に生かすことができず、学習と学習との間のつながりが弱い。

### 4. 本年度の重点取り組み

#### ①各学年の系統的な学びにつながる単元構想

2020年度 生活・総合単元名 (2020年度明石市立松が丘小学校総合的な学習の時間全体計画より)

学年	視点	単元名	人	もの・こと
6年生	地域に貢献する	よりよい松が丘をめざして	すべての世代	松が丘サミット・プロジェクト
5年生	地域について考える	松が丘安全プロジェクト	1年 まち論	安全マップ作成
4年生	地域から学ぶ	ふれあおう わかりあおう 仲たかな心	高齢者、障害者	地域の福祉
3年生	地域に関わる	松が丘 自然調査隊	2年・まち論・生き物見守り隊	自然マップ
2年生	地域とつながる	伝えよう わたしの自まんの〇〇 ～町・いきもの・おもちゃ～	保護者・地域の方々	地域とともに楽しむ
1年生	地域と出会う	松が丘愛	秋見つけ・昔遊び	秋見つけ・昔遊び

2021年度 生活・総合学習の流れ (2020年度カリキュラム・マネジメント・マップより抜粋・一部変更)

	1学期	2学期	3学期
6年	クラブづくり 松が丘プロジェクト(伝統)	松が丘サミット①(再構築・提案) 平和って何だろう(修学旅行)	楽学交祭をマネジメントしよう 卒業プロジェクト
5年	学校づくりプロジェクト(考案) (レインボープロジェクト)	自然学校 学校づくりプロジェクト(始動)	松が丘サミット② 委員会づくり
4年	盲導犬について調べよう	障害のある方の力になろう	2分の1成人式
3年	松が丘の町を調査!	松が丘小のビオトープを調査!	中庭のすてきをしょうかいする!
2年	松小「すてき」たんけんたい	松が丘の町「すてき」たんけんたい	松が丘「すてき」はかせ(発表)
1年	学校探検	秋見つけ	昔遊び

#### ②生活科・総合的な学習の時間の授業研究

- ・各学年のカリキュラム・マネジメント・マップの完成  
(地域を取り込んだ単元開発と年間指導計画の作成)

#### <4つの研究授業の形>

授業規模	参加	位置づけ	指導案を検討プロセス	事前・事後研
全体授業研(大)	全職員	低中高で1本ずつ	学年層⇒全体研究会⇒研究授業	全職員で事前・事後研を行う。記録を残す。
学年層研(中)	学年層	低中高で1本ずつ	学年層⇒研究推進⇒研究授業	学年層で事前・事後研を行う。記録を残す。
学年研(小)	学年	大か中を下支えする	学年⇒研究授業	学年で事前・事後研を行う。記録を残す。

※専科の先生方は、研究推進委員会で相談の上、実施。

#### ③学級経営案作成と交流

- ・学級経営の充実のために、学習面と生活面についてのおおよその指導計画を立てる。
- ☆5月中を目途に、各学級で作成し、研究推進委員会に提出する。
- ☆学打ちの時間などを使って、交流会を行い、学級の実態と手立てを交流し合う。

#### ④基礎基本の取り組みの継続と交流、蓄積

- ・児童が、自分の伸びを実感できるように取り組みを工夫し、共有する。

#### ⑤タブレットの有効活用に向けた研修